

令和6年度事業評価結果(課・室)総括表

会計区分 一般会計
課・室名 観光誘客課 (単位：千円)

事業名	区分	経費区分	福井県長期ビジョン における位置づけ	関連する県の計画等	事業区分			事業 開始 年度	経過 年数	令和 7年度 予算額	財源内訳				評価に基づく今後の対応									
					実行 予算	補助 金	その他				国庫	起債	その他 特定 財源	一般	拡充	継続	整理 統合	縮減	休止	廃止	終期 の見直し	完了	その他	見直し額
三方五湖エリア活性化支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	高速交通開通アクション・プログラム	○			R3	5	1,000	0	0	0	1,000		○								0
若狭湾サイクリングルート整備事業	拡充	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	高速交通開通アクション・プログラム	○	○		R3	5	22,966	12,410	0	0	10,556	○									0
福井県観光連盟負担金	継続	一部政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン			○	S59	42	73,172	0	0	0	73,172		○								0
御食国の食文化・歴史発信事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン			○	R5	3	3,000	0	0	0	3,000		○								0
観光レベルアップ事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			H23	15	382	0	0	0	382				○						7,559
インバウンド受入環境整備事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○	○		R1	7	17,750	0	0	0	17,750		○								0
「ふくい観光案内所」運営事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン			○	R5	3	17,932	0	0	0	17,932		○								0
稼ぐガイドツアー商品造成事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン、FIRST291「北陸新幹線開業プラン」		○		R7	1	4,685	2,342	0	0	2,343										0
海外クルーズ客船おもてなし事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			H29	9	13,022	0	0	0	13,022		○								0
DMOによる観光地域づくり推進事業	拡充	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R5	3	119,195	42,509	0	0	76,686	○									0
着地型観光バスツアー等定着支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R5	3	60,317	0	0	0	60,317				○						6,562
観光DX推進事業	拡充	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○	○		R6	2	67,932	0	0	0	67,932	○									0
国際観光推進事業	拡充	一部政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○	○		H16	22	52,915	16,045	0	0	36,870	○									0
関西の観光団体との連携による「大阪・関西万博」外国人観光客誘客事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン			○	R2	6	6,100	0	0	0	6,100		○								0
海外旅行会社との取引拡大推進事業	拡充	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R6	2	105,501	39,463	0	0	66,038	○									0
世界に向けた観光コンテンツ発信事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R7	1	79,442	31,380	0	0	48,062										0
インバウンド誘客戦略推進事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R7	1	54,999	27,499	0	0	27,500										0
インバウンド向けデジタルマーケティング推進事業	拡充	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○	○		R4	4	22,378	11,189	0	0	11,189	○									0
イベント開催による賑わいづくり支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R2	6	50,000	0	0	0	50,000		○								0
JR越美北線魅力発信事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R6	2	1,998	0	0	0	1,998		○								0
稼ぐ観光地づくり応援プロジェクト事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R4	4	54,100	27,050	0	0	27,050				○						7,331
東尋坊活性化支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R2	6	551,799	0	120,000	0	431,799		○								0
多様な宿泊施設整備支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R5	3	340,000	0	0	0	340,000		○								0
新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R5	3	101,356	0	0	0	101,356				○						1,328
民宿魅力再発見調査事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R7	1	3,092	0	0	0	3,092										0
六呂師高原活性化事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R2	6	8,040	0	0	0	8,040				○						233,761
サービス品質向上事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	FIRST291～北陸新幹線開業プラン～	○			R2	6	0	0	0	0	0						○				2,121
観光ガイドコンテンツレベルアップ事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～		○		H28	10	0	0	0	0	0						○				6,275
レンタカー等観光二次交通整備事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン		○		R5	3	0	0	0	0	0						○				11,220
東南アジア市場新規開拓事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R2	6	0	0	0	0	0						○				5,450
ZENをメインテーマとした誘客事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R4	4	0	0	0	0	0						○				15,000
インバウンド広報キャンペーン事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○			R6	2	0	0	0	0	0								○		37,962
JR西日本と連携したインバウンド誘客促進事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる（創造力）	ふくい観光ビジョン	○		○	R2	6	0	0	0	0	0			○							3,600
					19	15	5			1,833,073	209,887	120,000	0	1,503,186	6	11	1	5	0	5	0	1	0	338,169

三方五湖エリア活性化支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R3 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－					□ その他			□ その他					
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 高速交通開通アクション・プログラム 〕							
[解決すべき問題・課題] 平成30年度に三方五湖エリア全体協議会を立ち上げ、三方五湖エリアの「目指すべき姿」をステップアッププログラムとともに示した。今後、各主体において、このプログラムを関係団体や地域住民と協力しながら着実に実行していく必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年レインボーライン観光客入込数 446千人								
[事業目的] 北陸新幹線開業時の重要な交流拠点となる三方五湖エリアにおいて、県・町・地元が一体となって観光の目玉づくりを加速させ、誘客促進を図る。														
[事業内容] ・ 観光拠点のレベルアップ レインボーライン景観維持														
[受益者] 若狭地域						[想定される受益者数] 13万人								
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －				関連事業の有無・ 役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 若狭湾サイクリングルート整備事業 (役割分担) 当事業は景観維持のための伐木を行うのみに限る。							
市町との連携状況	－				他県の状況		－							

三方五湖エリア活性化支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R3 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金		経過年数		
補助率	－								□ その他		5 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	1,000						1,000						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			193,535	19,921	4,875	1,000	1,000	－					
2月現計予算額の推移			193,535	19,682	3,375	1,000							
決算額の推移			182,532	19,558	3,166								
前年度までの主な増減理由		R6：景観維持を目的とした伐木のみ実施 R5：レインボーライン景観維持費の一部を、土木部の北陸新幹線開業に向けた環境改善対策枠内対応に伴う減 R4：レインボーライン山頂公園の観光施設改修工事の完了に伴う減											
[成果指標等の推移]													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績									景観維持のための伐木であるため、成果指標を定めることは困難			
活動指標	(目標) 実績			(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1)			景観維持のための伐木を実施			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
－					－				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	□ 休止	□ 完了		
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

若狭湾サイクリングルート整備事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	県、市町ほか				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R3 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営、補助											
補助率	1/2ほか											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 高速交通開通アクション・プログラム 〕					
[解決すべき問題・課題] 三方五湖周遊ルートを核としたナショナルサイクルルートの指定を目指す。						[問題・課題を表す客観的データ] －						
[事業目的] 三方五湖周遊ルートを核としたサイクリングルートを整備し、ナショナルサイクルルートの指定を目指すとともに、北陸新幹線開業にあわせて国内外のサイクリストやファミリー層などの誘客を図る。												
[事業内容] (1) 受入環境整備 ゲートウェイ等整備 他県連携事業 サイクリングガイド養成講座 モニターツアー開催 (再掲) 多様な宿泊施設整備支援事業 (2) 情報発信 台北サイクルショー出展等 (3) 推進体制 協議会運営 N C R 指定記念式典経費												
[受益者] 若狭地域						[想定される受益者数] 13万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －					関連事業の有無・ 役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 三方五湖エリア活性化支援事業 (役割分担) 当事業は三方五湖エリアに限らず、嶺南地域全域にまたがる若狭湾サイクリングルートの整備を推進する事業である（三方五湖エリア活性化支援事業では景観維持のための伐木のみ行う）				
市町との連携状況	嶺南エリアの市町等とともに協議会を設立					他県の状況		－				

若狭湾サイクリングルート整備事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県、市町ほか				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R3 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営、補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	1/2ほか								□ その他		5 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	22,966		12,410				10,556	電源地域産業育成支援補助金 観光振興事業費補助金（先進的なサイクリング環境整備事業）					
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			7,814	8,303	30,398	18,905	22,966	モニターツアー実施、台北サイクルショー出展の新規要求による増					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			7,814	19,732	28,769	18,905							
決 算 額 の 推 移			6,145	8,022	25,107								
前年度までの 主な増減理由		R5：ゲートウェイ整備、HP・マップ作成、専門家助言の新規実施による増 R6：整備進捗状況に応じ、事業費を見直し											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	三方五湖の入込数 (千人)	(目標) 実績	(300) 340	(300) 378	(300) 446	(300) 470	(300)	(338)	(338)	新型コロナの影響も踏まえ、当面28年水準（30万人）を維持 ※レインボーラインの数値を準拠。中間目標は観光ビジョンの目標値（H30年度比20%増）に合わせる。令和6年度実績は見込み値			
活動指標	サイクルツーリズムセミナー等の開催	(目標) 実績	(6) 6	(8) 8	(8) 8	(8) 7	(8)	(8)	(8)	(事業者向け) 嶺南1市町につき1回 (住民向け) 嶺南西部・東部各1回（R4～）			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
①②の要因により成果目標を達成することができた。 ①自転車利用環境向上会議では全国から過去最多の518名が参加 ②向上会議の開催を通して、地元地域におけるサイクルツーリズムの機運が醸成され、セミナーについては昨年度に比べ回数は減少したが参加者数は増加 <R5> 延べ152名参加（8回開催） <R6> 延べ203名参加（7回開催） ・また、県内外でのイベントにおけるPR等を通して、わかさいくの認知度向上が図られ、SNSフォロワー数が合計574人増加					既存補助金等を活用し、民間事業者の取組みを促進して受入環境整備をより強力に進める。				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									□ 継続	□ 休止	□ 完了		
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

福井県観光連盟負担金

区分	継続	経費区分	一部政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	S59 年度	事業終了 予定年度 (見直し年度)	— 年度
事業実施方法	負担金					☐ 法定受託事務			☐ 補助金		経過年数		
補助率	定額								■ その他		42 年		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]						
[解決すべき問題・課題] —						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光客入込数 1,760万人 観光消費額 1,225億円							
[事業目的] 本県の観光事業およびコンベンションの振興を図るため、観光団体や観光関連事業者との連携を図る。													
[事業内容] 公益社団法人福井県観光連盟の会費を負担する。 【会費内訳】 ・会費 ・人件費 ・管理費 ・機器更新費 (R7のみ) ・引越し費用 (R7のみ)													
[受益者] 県内観光客						[想定される受益者数] 1,760万人 (R5観光客入込数)							
前事業の有無・実績	■ 無 ☐ 有 事業名 (実績) —				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) —						
市町との連携状況	—				他県の状況		—						

福井県観光連盟負担金

区分	継続	経費区分	一部政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体		(公社) 福井県観光連盟			事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	S59 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	— 年度
事業実施方法		負担金							☐ 補助金		経過年数		
補助率		定額				☐ 法定受託事務			■ その他		42 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	73,172						73,172						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移				54,564	56,186	54,645	56,967	73,172	財務・文書管理システムの導入、PCの買い替えによる増				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				54,564	63,401	62,859	61,433						
決 算 額 の 推 移				54,564	63,401	62,859							
前年度までの 主な増減理由		R2 県からの派遣職員増加による人件費増 R6 超過勤務算定方法の変更に伴う増											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	—	(目標) 実績									福井県観光連盟の機器更新にかかる経費であるため、指標の設定になじまない。		
活動指標	—	(目標) 実績									福井県観光連盟の機器更新にかかる経費であるため、指標の設定になじまない。		
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点					事業評価			
—					—					☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
										■ 継続	☐ 休止	☐ 完了	
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

御食国の食文化・歴史発信事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	実行委員会				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	負担金					□ 法定受託事務			☐ 補助金				
補助率	-								■ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]						
[解決すべき問題・課題] 「御食国若狭と鯖街道」を拠点とした福井の「鯖」など、地域の食や食文化や嶺南の魅力を一体的に発信する。						[問題・課題を表す客観的データ] 地域ブランド調査2023によると、本県の魅力度は全国38位							
[事業目的] 御食国と呼ばれた三重県、兵庫県および都であった京都府とともに御食国の文化をインバウンド向けに発信する。													
[事業内容] ・FAMトリップ実施によるメディアや旅行会社招請 ・観光案内所を活用した旅ナカでのプロモーション ・御食国ストーリー動画を活用した海外への情報発信													
[受益者] 県内宿泊施設、県内観光地						[想定される受益者数] 4,774事業所 (R3年経済センサス)							
前事業の有無・実績	■ 無 ☐ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	-					他県の状況		-					

御食国の食文化・歴史発信事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	実行委員会				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	負担金								☐ 補助金		経過年数		
補助率	-					☐ 法定受託事務			■ その他		3 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,000				3,000								
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移					3,000	3,000	3,000	-					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					3,000	3,000							
決 算 額 の 推 移					3,000								
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績	(165,100) 9,370	(214,630) 12,560	(279,019) 64,900	(400,000) 82,490	(148,000)	(274,000)	(400,000)	～令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン） 令和 7 年～ネクスト福井観光ビジョン（令和 1 1 年に 4 0 万人）			
活動指標	旅行会社や専門家によるモニターツアー	（目標） 実績			(1) 1	(1) 1	(1)			本事業は関連 4 府県で構成する実行委員会による事業のため、実行委員会において活動指標を決定			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
他県にまたがる事業であり、インバウンドよりも国内旅行者を対象としたプロモーションや商品造成が主であったため、外国人宿泊者数の増加にあまりつながっていない。 来年度からは予算をインバウンド向けの事業に注力し、旅行会社によるモニターツアーやプロモーションを実施することにより、外国人観光客の宿泊者増加につなげていく。					予算をインバウンド向けの事業に注力し、プロモーション事業を大きく予算を分配して実施				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

観光レベルアップ事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H23 年度 経過年数 15 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R11 年度
事業実施方法	直営					■ 法定受託事務						
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 「新たな観光ビジョン」目標の達成に向け、専門家の助言を取り入れ、本県の観光施策の進行管理を行う。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光客入込数 1,760万人 観光消費額 1,225億円						
[事業目的] 観光施策の推進を図る。												
[事業内容] 専門家の指導による観光施策の推進 観光事業に精通した専門家の助言を取り入れ、本県の観光施策を推進												
[受益者] 県内観光客						[想定される受益者数] 1,760万人 (R5観光客入込数)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -				
市町との連携状況	-					他県の状況		-				

観光レベルアップ事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	H23 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R11 年度
事業実施方法	直営								□ 補助金		経過年数		
補助率	-								□ その他		15 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	382						382						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移				190	190	191	7,941	382	現地集合を前提で要求（令和 5 年度まではオンライン前提）				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				190	190	191	7,941						
決 算 額 の 推 移				190	0	191							
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	(目標) 実績										会議を開催し専門家の助言を施策に取り入れるための事業であり、成果指標はなじまない。		
活動指標	懇話会開催回数	(目標) 実績	(1) 2	(1) 0	(1) 1	-	(1)	(1)	(1)	年に 1 度専門家よる助言を受け、施策に反映する。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価			
「新たな観光ビジョン」の検討会議開催のため、懇話会の開催なし						現地集合を前提で要求（令和 5 年度まではオンライン前提）				□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	7,559
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

インバウンド受入環境整備事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県、市町、観光協会、民間事業者等				事務区分	■ 自治事務		■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度	
事業実施方法	直営、補助					□ 法定受託事務							事業区分
補助率	3/4、1/2以内												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 多言語に対応した標識、フリーWi-Fiエリア等、外国人がストレスフリーに旅行 が出来る環境構築が課題						[問題・課題を表す客観的データ] 観光庁 訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート内 「旅行時に困ったこと」 1位 多言語対応、2位 二次交通、3位 Wi-Fi							
[事業目的] 北陸新幹線敦賀延伸に向けて、外国人観光客が快適に旅行できる受入環境を整え、消費拡大を促していくため、市町との共同により重点整備エリアを選定し、域内の キャッシュレス決済・免税対応等を面的に整備する。													
[事業内容] (1) 県内観光事業者のインバウンド対応意識醸成、安心して受入が出来る体制づくり ・県内観光事業者向けインバウンドビジネスセミナーの開催 (2) 重点整備エリア内における外国人観光客の受入環境整備に対する経費支援													
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4,774事業所（R3年経済センサス）							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —						
市町との連携状況	—					他県の状況	—						

インバウンド受入環境整備事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県、市町、観光協会、民間事業者等				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	3/4、1/2以内					□ 法定受託事務			□ その他		7 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	17,750				17,750								
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			62,640	37,734	24,537	0	17,750	R6 R6当初分（33,312千円）を2月補正に前倒し R7 個別免税店の助成金廃止による減額					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			16,800	37,734	40,443	0							
決 算 額 の 推 移			14,729	16,875	6,433								
前年度までの 主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	消費税免税店数	(目標) 実績	96	108	132	(232) 250	(240)	(250)	(300)	人口あたりにおける都道府県別免税店舗数中位			
活動指標	セミナー開催数	(目標) 実績	(5) 6	(10) 11	(17) 18	(12) 15	(12)			インバウンド来訪が多く見込まれる市町で実施			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価				
事業者を集めたインバウンド受入環境整備に関するセミナーを 1 5 件開催したほか、インバウンドアドバイザーが 4 0 0 件以上の事業者を個別訪問し免税手続きの方法等をアドバイスしたことにより、県内の免税店舗数を約 1 0 0 件新たに整備できた。 引き続き事業者に対する普及啓発を進めていくことで、より一層の受入環境を整備していく。						—			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	□ 休止	□ 完了		
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

「ふくい観光案内所」運営事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	県、（公社）福井県観光連盟、福井市				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	- 年度
事業実施方法	負担金			☐ 補助金								
補助率	1/2			☒ その他								
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを広げる（創造力）] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井敦賀開業に伴い増加する観光客に対し、質の高い情報提供ができる体制を構築する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光客入込数 1,760万人 観光消費額 1,225億円						
[事業目的] 北陸新幹線福井駅舎に隣接して、現在福井市が整備した「福井市観光交流センター」1階の「ふくい観光案内所」（R6.3開設）について、福井市と県・県観光連盟が連携し、県域全体の観光情報を総合的に案内する観光案内所として運営する。												
[事業内容] (A) 観光案内 (1) 運営体制 ①所長（旅行業務取扱管理者）…直接雇用（1名） ・コンシェルジュの労務管理や金銭出納管理を行う所長を連盟嘱託職員として直接雇用（令和6年2月～ 旅行商品の販売に必要な「旅行業務取扱管理者」有資格者を採用） ②観光案内コンシェルジュ ・平日3名、土日祝日4名体制でコンシェルジュを配置（常時英語対応）し、案内業務を実施（営業時間は8時30分から19時まで（年中無休） ただし、繁忙期（桜、GW、夏休み、紅葉シーズンを予定）は営業時間を20時まで延長予定） ・映像通訳サービスを導入し、多言語（13か国語）と手話での観光案内に対応 ・研修会や情報交換会を実施し、県内や近隣県の観光案内所のコンシェルジュ間の連携強化 ・車いす対応カウンター設置や車いすの貸し出し等、福祉面にも配慮した運営を実施 (2) 情報収集・発信 ・県内全市町や県外（石川、富山、東京アンテナショップ）の観光案内所等で相互に、リアルタイムに情報共有・情報支援ができるチャットシステムを運用 ・インターネット、新聞、雑誌、テレビ等で随時最新の情報を収集 (B) 各種チケット、クーポンおよび土産品等の販売 ・福井県内周遊の促進に資する旅行商品（ツアー291、はぴバス等）や交通切符等の各種チケット、クーポンや土産品（キリトリップ（福井県観光連盟ブランド化土産品）、フクシヨ（福井県セルフブランド化商品））等を販売 (C) 観光案内所設備の運用 ・福井県の伝統的工芸品等を福井の食とともに展示・紹介 ・特産品や伝統的工芸品等を使ったワークショップを定期的を実施 ・デジタルサイネージを活用し、旬なイベント情報等を発信												
[受益者] 本県を訪れる観光客、その他県民						[想定される受益者数] 2,000万人（ふくい観光ビジョンR6年観光客入込数）						
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 「福井駅観光案内所（仮称）」情報提供体制強化検討事業 (実績) 観光案内所開設に伴う情報提供体制強化検討を行い、観光案内所開設事業の基礎データとなった。					関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) —				
市町との連携状況	県内各地の観光案内所をチャットシステムで結び、県内の情報を集約配信する。					他県の状況		石川県、富山県ともに県庁所在地中心駅において、観光案内所を開設している。				

「ふくい観光案内所」運営事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県、（公社）福井県観光連盟、福井市				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度（見直し年度）	- 年度
事業実施方法	負担金								☐ 補助金		経過年数		
補助率	1/2					☐ 法定受託事務			■ その他		3 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	17,932				17,932								
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移					17,160	17,886	17,932	水道光熱費の価格高騰による増額					
2月現計予算額の推移					17,160	17,886							
決算額の推移					10,615								
前年度までの主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績									観光案内所を運営する事業であり成果を求めるべきものではないため、成果指標を設定することが困難			
活動指標	ワークショップ開催回数 (目標) 実績					(12) 27	(12)	(12)	(12)	月1回の実施を想定。6年度実績は見込み値			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
案内所のスタッフの良好な対応や、観光連盟の声がけにより、活動指標のワークショップ開催回数を目標どおり達成					水道光熱費の価格高騰による増額				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

稼ぐガイドツアー商品造成事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R7 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			■ 補助金		経過年数		
補助率	定額								□ その他		1 年		
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン、FIRST291~北陸新幹線開業プラン]						
[解決すべき問題・課題] これまで育成してきた観光ガイドについて、個人による商品販売を行ってきたが、周知不足や継続性などの課題があったため、組織的に専門ガイドを派遣できる体制を構築する。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光入込数 1 7, 5 9 8 千人、観光消費額 1, 2 2 5 億円 観光庁「令和5年 登録DMO現状調査」(DMOの課題) 1 位: 人材の確保・育成、2 位: 予算、財源							
[事業目的] これまで体験コンテンツや飲食・土産などの収益事業を実施してきたDMOや観光事業者が、新たな稼ぐコンテンツとして求めるテーマに沿った人材の育成と旅行商品の造成を支援													
[事業内容] DMOや観光事業者による高付加価値人材の育成・旅行商品造成を支援 (内容) ・DMO等の観光事業者へのヒアリング ・観光ガイドの基礎的な知識や技術を学べる動画の作成とペーパーテストによる理解度チェック(3回) ・観光関連団体が必要とするテーマごとに商品造成(5回) ・売主を招いたモニターツアーによる商品の磨き上げ(1回)													
[受益者] 県内観光客						[想定される受益者数] 1, 760万人(R5観光客入込数)							
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 観光ガイドコンテンツレベルアップ事業 (実績) 認定観光ガイド数 2 4 2 名(H28年~) ※R6実績除く ツアー造成数 1 9 件(R4年~) ※R6実績除く				関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) —						
市町との連携状況	—				他県の状況		—						

稼ぐガイドツアー商品造成事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R7 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	定額					☐ 法定受託事務			☐ その他		1 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	4,685	2,342			2,343		新しい地方経済・生活環境創生交付金						
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移							4,685	—					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移													
決 算 額 の 推 移													
前年度までの主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光消費額	(目標) 実績					(1,700)	(1,700)	(1,700)	令和7年目標値は新観光ビジョンによる			
活動指標	コンテンツ造成数	(目標) 実績					(3)	(6)	(10)	新幹線開業効果の波及効果の薄い地域に対してヒアリングの上、3ヶ年で10本造成予定(1年目：3本、2年目：3本、3年目：4本)			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和 7 年度の変更点					事業評価				
—				—					☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

海外クルーズ客船おもてなし事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	H29 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	委託											
補助率	-											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] クルーズ船の敦賀寄港時に、敦賀市内および県内観光地へ案内出来る体制および敦賀港内での受入体制の整備						[問題・課題を表す客観的データ] 敦賀港内の外国人向け観光案内所数 0						
[事業目的] 海外クルーズ客船の敦賀寄港時に、おもてなしイベントの実施や、観光案内所を設営することで、乗船客の満足度を高め、次回の寄港につなげる。												
[事業内容] 乗船客に対するおもてなし ○寄港時における観光・物産ブース運営委託(直営⇒委託) ・観光ブース管理・運営、来客者への案内、アンケート実施等 ・通訳スタッフや物産ブース手配対応 ○観光・物販ブースの設営 ・観光・物販ブースの設営(仮設テント、案内看板等の設置)												
[受益者] 外国人乗船者						[想定される受益者数] 1隻あたり約200人～2,700人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	・敦賀市が関連イベント等を実施					他県の状況	-					

海外クルーズ客船おもてなし事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	H29 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金				
補助率	-								□ その他				
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	13,022						13,022						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移						2,316	4,666	13,022	来船数の増(2⇒10隻) 業務を委託に変更				
2月現計予算額の推移						2,316	4,666						
決算額の推移						2,177							
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人乗船人数	(目標) 実績			(2,000) 2,700	(4,000) 3,100	(14,000)			成長産業立地課で中間目標、最終目標は設定するため、未記載			
活動指標	通訳ボランティア配置人数	(目標) 実績			(15) 17	(30) 30	(100)			ボランティアの配置人数はクルーズ船の寄港回数により変化するため、中間目標や最終目標の設定にはなじまない。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
予定していたクルーズ船1隻の寄港がキャンセルとなったため、成果目標を達成できなかった。 令和7年度は9隻のクルーズ船寄港を予定しており、岸壁での観光案内所運営（通訳ボランティアの確保含む）や物産出展などにより、乗客者に対するおもてなしを引き続き継続し、今後のクルーズ船寄港数増加につなげていきたい。						予定どおり寄港がある場合目標達成可能				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										■ 継続	□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

DMOによる観光地域づくり推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助											
補助率	10/10											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道の全線開通後効果を持続可能なものとするため、県観光連盟が観光地域づくりの中核となってさらなる観光振興と誘客促進を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 福井県観光入込数15,191千人、観光消費額 1,058億円 ↓ 令和5年 福井県観光入込数17,598千人、観光消費額 1,225億円						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道の全線開通後効果を持続可能なものとするため、福井県版DMO((公社)福井県観光連盟)が主体となって、地域の観光を担うプレイヤー支援等を行うことにより、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、地域一体となって観光に取り組む基盤づくりを推進する。												
[事業内容] (1) 観光地域づくりマネージャーの設置 (2) 観光スーパーバイザーの設置 (3) インバウンドマーケティングプランナーの設置 (4) インバウンドアドバイザーの設置 (5) 地域の観光を担うプレイヤー支援 (6) 外部専門家の派遣 (7) 観光教育推進事業 (8) 他地域のモデルプレイヤーとのネットワーク構築 (9) 観光事業者(シェフ等)誘致のための都市圏PR拠点運営および施設整備支援												
[受益者] 本県を訪れる観光客、その他県民						[想定される受益者数] 2,000万人(ふくい観光ビジョンR6年観光客入込数)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —				
市町との連携状況	—					他県の状況		—				

DMOによる観光地域づくり推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体		(公社) 福井県観光連盟			事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算		事業開始年度	R5 年度	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法		補助							■ 補助金			経過年数		
補助率		10/10				☐ 法定受託事務			☐ その他			3 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	119, 195		42, 509				76, 686		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等] (単位：千円)														
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移				90, 975	163, 755	178, 570	132, 453	119, 195	「(3) インバウンドマーケティングプランナーの設置」の増額(1年間の人件費を計上) 「(5) 地域の観光を担うプレーヤー支援」の増額(インバウンドかつ夜間コンテンツの補助率引き上げ措置を追加) 「(7) 観光教育推進事業」の増額(旅費、委託料等) 「(8) 他地域のモデルプレーヤーとのネットワーク構築」の増額(プラチナ大学観光講座の追加)					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				101, 754	163, 755	178, 570	132, 453							
決 算 額 の 推 移				53, 787	145, 734	164, 752								
前年度までの 主な増減理由		R4：デジタルマーケティングの実施に伴う増 R5：デジタルマーケティングのプロモーション経費を増額 R6：プレーヤー支援を減額												
[成果指標等の推移]														
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光消費額	(目標)	(1, 342)	(1, 352)	(1, 411)	(1, 700)	(1, 700)	(1, 700)	(1, 700)			交流・関係人口の拡大、「観光で稼ぐ」民間プレーヤーの増加により、地方経済の活性化が図られているかを把握する指標とする。積算根拠：6 年度1, 700億円(ふくい観光ビジョンより) 6 年度実績は見込み値とする。		
		実績	849	1, 058	1, 225	1, 500								
活動指標	観光プレーヤー支援数	(目標)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)					本事業を通して、「観光で稼ぐ」民間プレーヤーが実際に生まれているのかを把握する指標とする。年間10件以上の支援を目指す。		
		実績	13	18	20	9								
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
観光地域づくりマネージャー、観光スーパーバイザーによる地域のプレーヤー支援等に取り組み、観光基盤づくりに6年度も取り組んできたが、本事業で新規コンテンツ開発に関心を示す観光プレーヤーは既に支援しており、新規で手を挙げるプレーヤーが少なく9件に減った。そのため、観光プレーヤーの発掘に課題を残す結果となった。成果目標の観光消費額について、コロナ禍前に設定された金額を採用していることから、観光客入込数がコロナ禍前に戻り切っていないことや物価高による旅行控えなどにより、新幹線開業効果はあったものの目標を下回った。						支援対象とする観光プレーヤー数を増やすため、また、プレーヤーからの意見も踏まえ、新規開発だけでなく、既存観光コンテンツのブラッシュアップも補助対象とする。さらに、インバウンド客を増加させるため、インバウンドかつ夜間コンテンツの場合は補助率の引き上げる措置を設ける。				■ 拡充		☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
										☐ 継続		☐ 休止	☐ 完了	
										☐ 整理統合		☐ 廃止	☐ その他	

着地型観光バスツアー等定着支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟、県内貸切バス事業者、あわら市				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助											
補助率	10/10、1/2											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを上げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線で来た県外観光客の新幹線駅から県内観光地に向かうための交通手段確保・維持を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 福井県観光入込数 15, 191千人、観光消費額 1, 058億円 ↓ 令和5年 福井県観光入込数 17, 598千人、観光消費額 1, 225億円						
[事業目的] 令和5年度から運行に着手した県内新幹線駅経由の各種バスにつき、北陸新幹線福井・敦賀開業効果の最大化や、観光客に向けた二次交通確保等の観点から、その定着を図るため、プロモーションや運営支援等を継続することにより、着地型観光バスツアー等の持続可能な運行を目指す。												
[事業内容] (1) 着地型観光バスツアー「はぴバス」定着支援事業 ・ 県内の新幹線駅を発着とする、県内貸切バス事業者による着地型バスツアーの情報発信や事業運営に係る各種項目の支援を令和7年度も引き続き実施し運行を安定化させる。 ・ 支援項目：ノベルティ作成、動画制作、雑誌広告出稿、SNS広告、HPバナー掲載費、チラシ等の作成・配布費、販売促進費（プロモーションフィー）、観光連盟事務費 (2) あわら温泉・恐竜博物館直通「あわら恐竜号」運行支援に係る費用 ・ あわら温泉～恐竜博物館直通バスの運行費用のうち、採算ラインの乗車人数を下回る場合に赤字部分の運行費用を県とあわら市で補助する（県1／2、市1／2）。また、システム使用料（県1／2、市1／2）および広報費（県10／10）についても補助する。 ・ 補助対象期間：令和7年4月4日（金）～令和8年3月29日（日）（金土日祝日・夏休み（お盆期間））、172日間 ・ 運行経費の補助上限額：1日あたり58, 800円												
[受益者] 観光客						[想定される受益者数] 1,759万人（R5観光客入込数）						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —				関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —					
市町との連携状況	あわら恐竜号については、あわら市に費用負担を求めている。 令和6年度：運行経費の負担 県1/3、あわら市1/3、バス会社1/3 令和7年度：運行経費の半分をバス会社が負担し、残り半分のうち赤字部分を県1/2、あわら市1/2で負担する。				他県の状況		—					

着地型観光バスツアー等定着支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟、県内貸切バス事業者、あわら市				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			■ 補助金		経過年数		
補助率	10/10、1/2								□ その他		3 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	60,317						60,317						
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移						66,879	60,317	(1) 自主運行に向けて支援対象の縮小による減 R 6：システム運用費、デスク運営費、広報宣伝、プロモーションフィー等 R 7：広報宣伝、プロモーションフィー等 (2) 自主運行に向けて支援規模の縮小による減 R 6：運行経費の 1／3 を支援 R 7：赤字部分運行経費等 (1／2) および広報費 (10／10) を補助する					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					62,459	66,699							
決 算 額 の 推 移					48,752								
前年度までの主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ツアー造成数	(目標) 実績			(11) 11	(15) 29	(15)	(15)	(15)	指標：定期観光3コース+募集型企画旅行3コース×4シーズン			
活動指標	コンソーシアム加盟事業者数(社)	(目標) 実績			(6) 6	(7) 6	(7)			指標：京福、福鉄、ケイカン、大野観光、敦賀海陸、県バス協会+新規1社			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
本事業で広報宣伝費等を支援することで各社やる気を出して、自ら企画したコースを複数造成し、成果目標の15コースを上回り目標を達成した。活動指標については、はびバスが本格運行して1年目ということもあり、他社は様子見で参入を見送ったため、目標を下回った。 <乗客数実績> (1) 定期観光コース (R6.3.19～11.30) 1,956人 募集型企画旅行 10月まで実績無し 11、12月2コースで33名の利用あり (2) R6.4.5～R7.2.28の合計160日間で 往復合計3,879人 1往復あたりの乗車人数は24.2人で採算ライン42人に未到達					(1) プロモーションフィーの単価を引き上げ旅行会社に商品の売り込みをさらに強化してもらい団体客の獲得につなげる。また、雑誌広告やSNS広告を通して個人客の増加も図る。そのための費用を支援する。 (2) 早期の自主運行を実現化すべく、採算ラインを下回った場合に赤字部分を 1／2 補助する。また、広報費等についても補助する。				☐ 拡充	■ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	6,562	
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

観光DX推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	- 年度
事業実施方法	直営、補助												
補助率	10/10												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]						
[解決すべき問題・課題] 市町や地域の観光を担うプレイヤーに不足しているマーケティングや、必要なデータ情報が不足している。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 観光消費額 1,225億円							
[事業目的] 北陸新幹線の福井敦賀開業後の交流人口拡大、インバウンドの回復を見据え、県下全域を管轄する地域連携DMOとして情報を一元化し、特に市町や地域の観光を担うプレイヤーに不足しているマーケティングのノウハウや、必要なデータを集めるための仕組みづくりを行う。取得したビッグデータをもとに観光客の分析を行い、地域資源を活かした新たな土産品開発、体験コンテンツ造成、地域の新たな周遊滞在・宿泊スタイルの構築により、稼ぐ観光を推進する。													
[事業内容] (1) アンケートデータシステム運用 (2) 定量的データ収集システム運用 (3) B I ツール運用 (4) 観光DX推進事務局経費 (5) ビッグデータ活用費用 (6) アンケートデータ多言語化運用 (7) F T A Sのデータを使用した共同研究費用 (8) 観光連盟事務費													
[受益者] 福井県の観光関係事業者(宿泊業、飲食サービス業等)						[想定される受益者数] 事業所数: 4,657 (R3経済センサス-活動調査)							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	-					他県の状況		石川県(Milli)、富山県(TOYTOS)でも各県の観光データをオープンデータ化					

観光DX推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	- 年度
事業実施方法	直営、補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	10/10								□ その他		2 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	67,932				67,932								
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移						0	67,932	R6 2月補正前倒し (93,109千円) R7 定量的データ収集システムの拡充					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					93,109	0	67,932						
決 算 額 の 推 移					0								
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光消費額	(目標) 実績				(1,700) 1,500	(1,700)	(1,700)	(1,700)	稼ぐ観光地域づくりの基盤として、地方経済の活性化を図る観光消費額を指標とする。6 年度実績は見込み値。			
活動指標	FTAS(福井県観光データシステム) 活用数 (UU数)	(目標) 実績				(4,500) 8,735	(4,950)			FTASの利用者数として、Googleアナリティクスによるユニークユーザー数 (UU数) を指標とする。6年度実績は見込み値。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価				
新幹線開業効果の分析やFTASのメディア露出等により、FTASに注目が集まったことから、活動指標を目標どおり達成。 令和 5 年度観光消費額については、令和 5 年 5 月の新型コロナウイルスの 5 類以降までは県外観光や宿泊を控える動きがあったほか、宿泊施設では人手不足で稼働率が伸びきらなかったことが要因で目標を下回った。						・ FTASのデータの充実 (インバウンドに対してのアンケートデータ収集、入込データ収集) ・ FTAS活用の推進、自動発信化			■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									□ 継続	□ 休止	□ 完了		
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

国際観光推進事業

区分	拡充	経費区分	一部政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県、（公社）福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	H16 年度 経過年数 22 年	事業終了 予定年度 （見直し年度）	R9 年度
事業実施方法	直営、補助												
補助率	10/10												
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 訪日外国人は様々な国々から来訪し、旅行形態や目的などが様々なため、適切なプロモーションを実施する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和元年 福井県 外国人延べ宿泊者数 97,730人 令和5年 福井県 外国人延べ宿泊者数 64,900人							
[事業目的] 海外旅行会社・メディア等への営業や貸切バスツアーへの助成等を実施し、本県への海外からの誘客拡大を図る。													
[事業内容] (1) 海外旅行会社、教育関係者、メディア等の招へい (2) 海外旅行会社・メディアへの営業、現地プロモーション 新 万博に向けた関西空港ブース出展 新 ホテルコンシェルジュを活用した誘客 拡 台湾レップの運営の改善 新 ツーリストガイドデジタルマップ化 新 観光連盟観光マップの多言語化および県パンフレットの統合 (3) 本県へのバスツアーに対する助成 補 助 額 25千円／台泊 対象地域 台湾、中国、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア等 補助要件 ア 貸切バス利用 イ 県内宿泊1泊以上 ウ 県内観光地を2か所以上訪問 加算要件：各5千円 ・閑散期加算													
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4,774事業所（R3年経済センサス）							
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 体験・アクティビティをテーマとした東アジアからのインバウンド拡大事業（実績） 台湾レップ（商品造成実績R5:17本221人送客） 現地旅行会社と連携して旅行博で現地旅行会社のブースに出展する形に変更					関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名（役割分担） －					
市町との連携状況	－					他県の状況		－					

国際観光推進事業

区分	拡充	経費区分	一部政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体		県、（公社）福井県観光連盟			事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	■ 実行予算	事業 開始 年度	H16 年度	事業終了 予定年度 （見直し年 度）	R9 年度	
事業実施方法		直営、補助						■ 補 助 金		経過年数			
補助率		10/10						□ そ の 他		22 年			
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	52,915		16,045				36,870	新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移				22,687	19,798	23,563	25,410	52,915	・万博に向けた関西空港ブース出展 ・ホテルコンシェルジュを活用した誘客 ・台湾レップの運営方法の改善 ・ツーリストガイドのデジタルマップ化 ・観光連盟観光マップの多言語化および県パンフレットの統合				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				22,687	14,798	23,563	22,085						
決 算 額 の 推 移				9,179	12,130	17,767							
前年度までの 主な増減理由		令和6年度：バス助成の加算											
[成果指標等の推移]													
区 分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標）	(165,100)	(214,630)	(279,019)	(400,000)	(148,000)	(274,000)	(400,000)	～令和6年 40万人（ふくい観光ビジョン） 令和7年～ネクスト福井観光ビジョン（令和11年に40万人）			
		実績	9,370	12,560	64,900	89,040							
活動指標	誘客活動実績（件）	（目標）			(8)	(8)	(8)			海外旅行博等への参加、視察旅行受入・国内商談会出席等の件数			
		実績		12	18								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
（バス助成）R5:312台6,862人泊（R4:37台1,074人泊）539%増 R7.1時点：207台、5,440人泊 外国人宿泊者数はコロナ前（令和元年）の9割まで回復した。 活動指標について目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】 ・本県の認知度向上の取組が他の観光地を上回って露出するのに不十分						旅行博出展を誘客に直接結びつけられるように、現地旅行会社と連携する方法に変更 関西空港で入国直後の外国人観光客向けの観光ブースを出展するとともに、富裕層向けのPRを強化する。				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

関西の観光団体との連携による「大阪・関西万博」外国人観光客誘客事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	関西観光本部 等				事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	事業区分	☐ 実行予算 ☐ 補助金 ☒ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	定額											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを上げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] 関西圏の既に多くの外国人観光客が訪れる地域と連携した本県への誘客体制の構築						[問題・課題を表す客観的データ] 2023年 訪日外国人延べ宿泊数大阪 18,480,840人、京都 12,119,590人						
[事業目的] 万博来場者をターゲットに、インバウンドに取り組んでいる関西の観光団体や万博協会と連携し、広域旅行商品の造成や情報発信を行い、本県への誘客拡大を図る。												
[事業内容] (1) 関西観光本部と連携した観光エリアの共同PR 関西観光本部および関係府県・企業との連携により、万博に来場する外国人旅行者をターゲットにした誘客を促進 (2) 大阪観光局と連携した広域周遊ルートの共同PR 連携協定に基づく、大阪をスタートとする富裕層向けの広域周遊ルートの造成や、大阪観光局のWEBサイトや観光案内所等でのPR (3) 日本みどりのプロジェクト推進協議会負担金 自然を核とした体験コンテンツの研究・造成、協議会会員企業等を通じた観光コンテンツのPR												
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4,774事業所（R3年経済センサス）						
前事業の有無・実績	☒ 無 ☐ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) -				
市町との連携状況	-					他県の状況		-				

関西の観光団体との連携による「大阪・関西万博」外国人観光客誘客事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	関西観光本部 等				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	負担金								☐ 補助金		経過年数		
補助率	定額					☐ 法定受託事務			■ その他		6 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	6,100				6,100								
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			10,210	5,900	6,000	0	6,100	R6 2月補正前倒し(6,100千円)					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			10,210	5,900	12,100	0							
決 算 額 の 推 移			3,961	2,551	6,000								
前年度までの 主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績	(165,100) 9,370	(214,630) 12,560	(279,019) 64,900	(400,000) 89,040	(148,000)	(274,000)	(400,000)	～令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン） 令和 7 年～ネクスト福井観光ビジョン（令和 1 1 年に 4 0 万人）			
活動指標	他地域との連携実績（件）	（目標） 実績	(5) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1)	(1) 1		関西観光本部、大阪観光局との連携事業実施数			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価				
下記事業を 2 エリアと実施し、活動指標の目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、インバウンドから本県への認知度が不足したため、成果指標達成できなかった。 【関西観光本部との連携】・県内旅行商品のタリフ化、販売支援（2 0 件） 【大阪観光局との連携】・大阪観光局が海外での富裕層商談会等で福井県の売込みを実施 （米国や欧州での 5 商談会、2 5 0 社） ・大阪観光局が日本国内のインバウンド富裕層向け旅行手配事業者（DMC）5 社に営業を実施									☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

海外旅行会社との取引拡大推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金				
補助率	-								□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [9 北陸新幹線効果を最大化・持続化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]						
[解決すべき問題・課題] 県内でインバウンド旅行を取り扱う事業者の数が少ない。 県内にあるインバウンド向けコンテンツの数が少ない。						[問題・課題を表す客観的データ] 県内インバウンド旅行取扱事業者4社⇒5社 (R6.9) OTAサイト体験コンテンツ数 (KL00K) 福井6コンテンツ 石川県34コンテンツ (R6.9)							
[事業目的] 県内旅行会社のインバウンド誘客スキルの向上を図るとともに、県内観光関連事業者と海外旅行を扱う旅行会社の結びつきを増やすことで誘客拡大を図る。													
[事業内容] (1) インバウンドデスクの設置【長期継続契約】 (2) 観光コンテンツの充実 インバウンドネットワーキングの開催 観光コンテンツの発掘・磨き上げ (3) 海外旅行会社への営業活動 拡 中国・香港への営業代行 (営業エリアの拡大) タイへの営業代行 旅行会社招へい 拡 近隣空港を用いた誘客促進 レップの運営 (4) 事業者と旅行会社との結びつけ 東京・福井でのランドオペレータ商談会													
[受益者] 県内宿泊施設、県内観光地						[想定される受益者数] 4, 774事業所 (R3年経済センサス)							
前事業の有無・実績	□ 無 上海からの誘客促進事業 ■ 有 事業名 ZENによる誘客促進事業 (実績) (上海便助成) 433名送客申請あり (北米レップ) 旅行会社への営業件数 207件 (R5年度) ※R6年度も200件程度を予定					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	-					他県の状況		-					

海外旅行会社との取引拡大推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代			
事業主体		県			事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度	
事業実施方法		委託				□ 法定受託事務			□ 補助金						
補助率		-							□ その他						
区分	事業費		国庫		起債		その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	105, 501		39, 463						66, 038		新しい地方経済・生活環境創生交付金				
[予算額の推移等]															(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由							
当 初 予 算 額 の 推 移						0	105, 501	R6 2月補正前倒し（53, 665千円） R7 北米レップによる増（他事業から移行）、中国の営業代行業務の拡大、近隣空港からの誘客促進補助金の増（他事業から移行）、駅旅コンシェルジュ広告の減、タリフの多言語化の減							
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					53, 665	0									
決 算 額 の 推 移					0										
前年度までの 主な増減理由		-													
[成果指標等の推移]															
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標）	(165, 100)	(214, 630)	(279, 019)	(400, 000)	(148, 000)	(274, 000)	(400, 000)	～令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン） 令和 7 年～ネクスト福井観光ビジョン（令和 1 1 年に 4 0 万人）					
		実績	9, 370	12, 560	64, 900	89, 040									
活動指標	海外旅行会社への営業	（目標） 実績				(195) 195	(280)			営業代行（中国・香港、タイ） 営業数					
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点					事業評価					
R6. 12現在インバウンドデスク相談件数143件うち海外54件、成約18件287人 ネットワーク2回開催 22コンテンツをOTAサイト登録に向けて支援中 営業代行 7 月開始(中国香港159件、タイ旅行会社48件に対し営業) R6. 7. 2福井県内視察商談会 県内企業17社、ランドオペレータ11社参加 R7. 1. 24東京での県内事業者との商談会 県内企業10社、東京側10社参加 上海便利補助金433名送客申請あり 活動指標を達成 活動指標の目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】旅行商品造成ほ補助金制度が事業者に活用しづらく、造成が進まなかった。					中国営業代行において上海便促進補助金の運用方法として活用しにくいとの声があったため、運用方法を見直し、大市場中国の営業範囲を拡大し、さらなる誘客を図る。 小松空港利用者の本県訪問宿泊を増やすため、国際路線を活用した宿泊プランの造成に対して助成する形で誘客を図る。					■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額		
										□ 継続	□ 休止	□ 完了			
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他			

世界に向けた観光コンテンツ発信事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	委託												
補助率	－												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 福井県の海外での認知度が低い。						[問題・課題を表す客観的データ] 海外旅行博等で取得したアンケートデータ							
[事業目的] 訪日旅行を考える個人の外国人観光客向けの露出を増やすことにより、本県認知度の向上と県内への誘客を図る。													
[事業内容] (1) 福井が選ばれるよう誘導 一流ライター・カメラマンによる魅力的な電子カタログの制作 インフルエンサー等による情報発信 (2) インターネット予約への誘導 外国人がよく利用するOTAサイトでの特集・販売 (3) 本県に立ち寄る周遊観光ルートの周知 万博を目的に訪日した外国人へ県内コンテンツを利用したツアーを販売 駅観光案内所での旅ナカ情報発信 近隣府県からの旅ナカ客誘致 (4) 他団体と連携したプロモーション													
[受益者] 県内宿泊施設、県内観光地						[想定される受益者数] 4, 7 7 4 事業所 (R3年経済センサス)							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) －					
市町との連携状況	－					他県の状況		－					

世界に向けた観光コンテンツ発信事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	委託								□ 補助金		経過年数		
補助率	－								□ その他		1 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	79,442		31,380				48,062		新しい地方経済・生活環境創生交付金				
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和7年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移								79,442	－				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移													
決 算 額 の 推 移													
前年度までの 主な増減理由		－											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績						(148,000)	(274,000)	(400,000)	ネクストふくい観光ビジョン（令和11年に40万人泊）		
活動指標	海外への情報発信回数	（目標） 実績									海外への情報発信回数（SNSやマガログ等への露出数、参加旅行博来場者数、造成したツアーの参加数等）		
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点						事業評価			
－				－						□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

インバウンド誘客戦略推進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	委託							□ 補助金				
補助率	-							□ その他				
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
【解決すべき問題・課題】						【問題・課題を表す客観的データ】						
インバウンドによる県内観光産業の活性化を図るためには、訪日旅行者数を増やすだけではなく、1人あたりの消費額を増やす必要がある。						外国人観光客1人あたりの消費単価 福井県：3.3万円/人（全国40位）、全国中央値：4.6万円/人						
【事業目的】												
外部専門家の分析、助言をインバウンド全体の政策立案に活かすとともに、富裕層への誘客を拡大し、宿泊拡大や消費単価向上を目指す。												
【事業内容】												
①外部専門家による分析・助言および富裕層受入体制整備（30,000千円） ・本県のインバウンド政策立案 ・インバウンドに関する統計や要因分析 ・県内コンテンツを世界へ売り出すためのブランディング（戦略策定）や、地域DMC（県内観光協会）の伴走支援など、総合的な指揮・提言や実行を行い、モデル的に県キラーコンテンツ（永平寺、伝統工芸等）に関連する富裕層の受入体制を整え、他のDMCにノウハウを共有												
②コンテンツ開発・販売体制整備（7,975千円） ・観光素材（宿や食、体験等）を富裕層向けの体験コンテンツやモデルコースとして造成、磨き上げ（4,675千円） ・体験コンテンツのタリフ化やWEB上での掲載による販売体制の整備（3,300千円）												
③プロモーション・販売活動（17,024千円） ・富裕層旅行コンソーシアム（富裕層旅行を取り扱う旅行会社が多数加盟する世界規模の団体）や全国DMC（海外旅行会社からの依頼を受け、手配を行う旅行会社）への売込み ・富裕層を取り扱う旅行会社や大手メディア招請によるプロモーション ・海外の日本文化発信拠点施設等を活用した、現地旅行会社やメディアに対するPRイベントの実施												
【受益者】 県内観光地、県内宿泊施設						【想定される受益者数】 4,774事業所（R3年経済センサス）						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -				関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	-				他県の状況		-					

インバウンド誘客戦略推進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	-								□ その他					
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	54,999		27,499				27,500		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等]														(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由						
当 初 予 算 額 の 推 移							54,999	-						
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移														
決 算 額 の 推 移														
前年度までの 主な増減理由		-												
[成果指標等の推移]														
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	外国人観光客 1 人あたりの消費単価 (万円) (目標) 実績						(3.5)	(4.0)	(4.6)	インバウンド消費動向調査で全国の中央値 (4.6万円/人) を目指す				
活動指標	富裕層を取り扱う旅行会社やDMCの招請 (目標) 実績						(2.0)	(2.0)	(2.0)	旅行会社 1 件、全国DMC 1 件				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点					事業評価				
-					-					□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										□ 継続	□ 休止	□ 完了		
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

インバウンド向けデジタルマーケティング推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	県、観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	直営、補助金							■ 補助金				
補助率	10/10							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] デジタル領域でのプレゼンス向上						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県OTA(Booking.com)登録施設数 2023年5月時点 96件（全国47位） 令和5年度年間英語レビュー数23,745件と月平均2000件弱と非常に少ない。 中国語（繁体字レビュー数年8925件）（簡体字レビュー数年1763件）となっている。 福井ドットコムは昨年度3月のレビュー数150万件の実績がある。						
[事業目的] インバウンド向けHPの閲覧数を増やすために、運営方法を見直し、観光連盟HP「ふくいドットコム」に統合する。												
[事業内容] (1)既存インバウンド向けHPのシステム等維持管理費 (2) HPデータの移行 (3) ふくいドットコムの多言語版HPへのリニューアル費用												
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4,774事業所（R3年経済センサス）						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —					
市町との連携状況	—					他県の状況	—					

インバウンド向けデジタルマーケティング推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体		県、観光連盟			事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法		直営、補助金							■ 補助金					
補助率		10/10				□ 法定受託事務			□ その他					
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	22,378		11,189				11,189		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等]														(単位：千円)
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移				36,315	26,099	34,741	12,720	22,378	HP移行に伴う経費					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				36,315	26,099	34,741	12,720							
決 算 額 の 推 移				35,666	25,228	34,740								
前年度までの 主な増減理由		令和 6 年度：公式 S N S 運営委託の廃止												
[成果指標等の推移]														
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ウェブサイトPV数	(目標) 実績		(61,235) 35,905	(67,796) 34,228	(74,357) 38,273	(80,918)	(74,357) 38,273	(87,478)	令和元年度PV数から単年度平均約12%、最終60%増加を目指す。				
活動指標	ウェブサイト更新回数	(目標) 実績				(10) 8	(10)			ウェブサイト更新回数				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
令和 5 年度PV：34,228pv 令和 6 年度PV (12月末)：38,273pv 【事業による要因】 サイトの更新頻度が遅く、PV数の目標を達成できなかった。						インバウンドHPの運営方法を福井県観光連盟の「ふくいドットコム」に統合し、全体的な費用の減額と職員によるページ更新可能な即応性獲得を目指す。				■ 拡充		□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続		□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合		□ 廃止	□ その他	

イベント開催による賑わいづくり支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県内の民間事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金				
補助率	1/3								☐ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 近年全国から誘客を図れるイベントとして注目されている大規模音楽フェスの開催を支援し、本県の歴史・文化、食、伝統工芸などの魅力を発信するとともに、福井県の賑わいを創出する。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光入込数17,598千人							
[事業目的] 歴史・文化、食、伝統工芸などの福井の魅力を全国に発信できるイベント（大規模音楽フェス）開催を支援し賑わいを創出する。													
[事業内容] (1) 大規模野外フェスの支援（50,000千円） ・補助対象 県内の民間事業者 ・補助上限額 10,000千円 ・補助率 1／3以内 ・採択件数 5件 ※他県から福井県への誘客につながる大規模音楽フェスを開催し、県内外の音楽ファンを惹きつける観光コンテンツに対し支援を行い、賑わいを創出する。 (支援イベントの採択基準) ・歴史・文化、食、伝統工芸などの唯一無二の福井の魅力を全国に発信 ・県内観光地か県内新幹線駅から徒歩圏内で開催 ・主催者が興行を生業としていない団体 ・5,000人以上集客する大規模音楽フェス													
[受益者] 観光客						[想定される受益者数] 1,759万人（R5観光客入込数）							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —						
市町との連携状況	—				他県の状況		—						

イベント開催による賑わいづくり支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県内の民間事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	1/3					☐ 法定受託事務			☐ その他		6 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	50,000				50,000								
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			30,000	27,000	4,000	30,000	50,000	大規模音楽フェスへの支援件数を増やしたことによる増（R 6：3 件→R 7：5 件）					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			4,000	5,000	10,000	29,206							
決 算 額 の 推 移			4,000	5,000	10,000								
前年度までの 主な増減理由		R 5：ワンパークフェスの県庁敷地内活用に伴い、支援額を強化 R 6：大規模音楽フェスへの支援件数を増やしたことによる増（R 5：1 件→R 6：3 件）											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	イベント入込数（人）	(目標) 実績		(20,000) 8,000	(20,000) 20,000	(24,000) 45,000	(40,000)	(40,000)	(40,000)	目標値：8,000人×5 件			
活動指標	支援件数	(目標) 実績		(1) 1	(1) 1	(3) 3	(5)	(5)	(5)	賑わいを創出するため年間5件のイベント（大規模音楽フェス）を支援する。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
令和 6 年度は、令和 5 年度に比べ支援件数が 2 件増えたことおよびワンパークフェスティバルの認知度が向上したことで、イベント入込数が目標値を上回った。 <前年度実績> ワンパークフェスティバル ・開催日 令和 6 年 9 月 7 日、8 日 ・来場者数実績 2 日間で延べ 27,000 人 グリーンフラッシュフェス おぼろっく ・開催日 令和 6 年 6 月 22 日 ・開催日 令和 6 年 9 月 14 日、15 日 ・来場者数実績 8,000 人 ・来場者数実績 10,000 人					大規模音楽フェスへの支援件数を 3 件から 5 件に増				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

J R 越美北線魅力発信事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	-					□ 法定受託事務			□ その他					
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕							
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井・敦賀開業を活かした越美北線の観光利用および沿線地域への観光誘客を促進する。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年度一日あたりの駅乗降客数1,436人/日 (国土数値情報ダウンロードサービスより)								
[事業目的] インフルエンサーを起用したSNSでのJR越美北線および沿線観光施設等の魅力発信を通じて、越美北線の乗客数増加および沿線観光施設等への誘客促進につなげる。														
[事業内容] (1) インフルエンサーを起用したSNSにおける越美北線魅力発信事業 インフルエンサーを起用し、JR越美北線および沿線観光施設を取材しSNSで魅力を発信してもらうことで、県内外から観光客の誘客促進を図り、JR越美北線の観光利用に繋げる。														
[受益者] 越美北線の乗客						[想定される受益者数] 令和4年度一日あたりの駅乗降客数1,436人/日								
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -							
市町との連携状況	県、JR西日本、福井市、大野市の4者で越美北線観光利用促進協議会を立ち上げており、各構成員が予算を持ち、観光利用の促進に取り組んでいる。				他県の状況		-							

J R 越美北線魅力発信事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託								□ 補助金		経過年数		
補助率	-					□ 法定受託事務			□ その他		2 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	1,998						1,998						
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移						1,912	1,998	事業内容の見直し（R 6：ロゴを活用した取り組み、R 7：インフルエンサーを起用した魅力発信事業）により、86千円増加					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						1,912							
決 算 額 の 推 移													
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光利用による越美北線利 用人数（増加数）		(目標) 実績			(80) 114	(80)	(80)	(80)	越美北線や沿線地域の魅力を発信することで観光利用による越美北線利用 者数を年間80人増を目指す。			
活動指標	R6：ステッカー配布数（枚） R7：SNS投稿閲覧数（回）		(目標) 実績			(2,000) 2,000	(10,000)	-	-	R6：PRロゴのステッカーを2,000枚作成し、越美北線関連のイベント等で配布する。 R7：インフルエンサーによるSNS投稿の閲覧数を10,000回に設定 単年で終わる活動であるため最終目標値を設定してしない。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価				
令和 6 年度ではPRロゴを活用し車両への掲出、越美北線関連イベント開催案内チラシに掲載、ステッカーの作成・配布で越美北線のPRを実施し 成果目標の観光利用による越美北線利用人数（増加数）80人を上回る114 人の利用があり目標を達成した。						PRロゴについては、引き続き文化課、福井市、大野市が主催 する沿線で行われるイベント等のチラシに掲出を依頼する。 新規で、インフルエンサーを起用した魅力発信の取り組みを 行う。			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	□ 休止	□ 完了		
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

稼ぐ観光地づくり応援プロジェクト事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	市町等、（公社）福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助							■ 補助金				
補助率	1/2、10/10							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] JR西日本・福井県・旅行会社が連携した観光開発プロジェクトの実施に当たり、旅行商品のさらなる造成を進める必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年 福井県観光客入込数 1,760万人 観光消費額 1,225億円						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、JR西日本・福井県・旅行会社の連携による観光開発プロジェクトを実施することが決定した（令和3年）。本プロジェクトにより、本県を周遊する旅行商品造成を進め、観光消費額の増加、県内周遊観光促進を図る。												
[事業内容] (1) 旅行商品造成にかかる支援 補助対象 ①体験メニュー、アクティビティ等の開発および観光素材の磨き上げ ②観光施設等の改修や備品の追加・更新（新規整備は対象外） (2) 旅行会社の県内視察支援												
[受益者] 福井県の観光関係事業者（宿泊業、飲食サービス業等）						[想定される受益者数] 事業所数：4,657（R3経済センサス-活動調査）						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —				関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —						
市町との連携状況	地元の観光関係事業者のニーズを市町が集約・吸い上げし、そこに県が補助金を充当していく形での連携を図っている（補助対象者は市町）。				他県の状況	—						

稼ぐ観光地づくり応援プロジェクト事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	市町等、（公社）福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R4 年度	事業終了予定年度（見直し年度）	R7 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	1/2、10/10					☐ 法定受託事務			☐ その他		4 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	54,100		27,050				27,050	新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移				102,502	78,931	61,431	54,100	補助事業件数の減 (R6：55,000千円⇒R7:50,000千円)					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				13,985	71,771	23,809							
決 算 額 の 推 移				12,933	69,420								
前年度までの 主な増減理由		令和5年度以降は、市町からの補助金活用希望の意見集約を行い、予算額の積み上げを行った。 (令和4年度は事業開始年度ということもあり、見込みで予算積算を行った。)											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光客入込数（千人） （※暦年）	（目標） 実績	(18,000) 12,356	(18,500) 15,191	(19,000) 17,598	(20,000) 20,000	(20,000)	(17,500)	(20,000)	令和6年目標値 20,000千人（観光ビジョン R2～R6） 令和7年目標値 新観光ビジョンの目標値による R6年度実績は見込み値			
活動指標	旅行会社による視察件数	（目標） 実績	(6) 12	(12) 12	(12) 12	(12) 12							
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
観光コンテンツ造成や既存施設の改修等の市町事業を支援するとともに、旅行会社の県内観光地視察を促進することにより、成果指標の観光客入込数の目標達成に寄与					継続して観光コンテンツ造成や既存施設の改修等の市町事業を支援するとともに、旅行会社の県内観光地視察を促進する。				☐ 拡充	■ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	7,331	
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

東尋坊活性化支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	坂井市				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R10 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金		経過年数		
補助率	1/2								☐ その他		6 年		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 本県を代表とする観光地としてスケールアップを図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 東尋坊観光客入込数 620千人 令和5年 東尋坊観光客入込数 801千人							
[事業目的] 県外での認知度も高く、本県で最も観光客が訪れる東尋坊において、新しい魅力づくりや東尋坊全体の活性化を支援し、本県を代表する観光地としてスケールアップを図る。													
[事業内容] 東尋坊再整備基本計画に基づく活性化事業への支援 (1) ハード整備への支援 駐車場の集約・一元化、県道・市道改修、ビジターセンターの整備 等 (2) ソフト事業への支援 商店街の活性化・新規商品の開発 等													
[受益者] 福井県の観光関係事業者（宿泊業、飲食サービス業）						[想定される受益者数] 4,774事業所（R3年経済センサス）							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —					
市町との連携状況	東尋坊全体の活性化策について、坂井市・地元関係者等と検討					他県の状況		—					

東尋坊活性化支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体		坂井市			事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算		事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R10 年度
事業実施方法		補助							■ 補助金					
補助率		1/2				☐ 法定受託事務			☐ その他					
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	551,799			120,000			431,799		公共事業等債108,000千円 行革債12,000千円					
[予算額の推移等]														(単位：千円)
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移				105,504	365,817	222,572	394,499	551,799	坂井市の再整備事業の事業規模により各年度の増減あり					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				101,814	97,450	221,980	336,759							
決 算 額 の 推 移				92,096	88,745	221,980								
前年度までの 主な増減理由		令和4年度は、駐車場一元化や県道拡幅といった工事に着手することとしていたため、当初予算費が増加した。 (国との協議等により、最終的に工事は令和5年度から着手することとなった) 令和5年度は、駐車場一元化や県道拡幅といった工事に着手するため、当初予算費が増加した (R4.2月現計比) 令和6年度は、継続して駐車場一元化を進めるとともに、新たに交通広場や散策路整備に着手することとしていたため、当初予算費が増加した。												
[成果指標等の推移]														
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	東尋坊観光客入込数 (千人) (※暦年) (目標) 実績			451	620	801	800		(2,000)	(3,000)	中間(R6)/最終目標(R10) (三国グランドビジョン) より R6年度実績は見込み値			
活動指標	(目標) 実績										事業内容が拠点整備等への支援であるため、活動指標の設定なし			
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
東尋坊再整備事業の途中段階であり、東尋坊観光客入込数の大きな増加には繋がっていない。						坂井市が行う東尋坊再整備事業を継続して支援し、早期完成を実現することにより、東尋坊観光客入込数の増加に寄与する。				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
										■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

多様な宿泊施設整備支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	市町、民間事業者				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助											
補助率	1/3、1/2											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを上げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線の利用者や今後増加が見込まれる外国人観光客等の新たな宿泊需要に対応する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 福井県内延べ宿泊者数 271万人 令和5年 福井県内延べ宿泊者数 324万人						
[事業目的] 北陸新幹線県内開業や中部縦貫自動車道の全線開通に向けた、観光客の宿泊需要に対応するため、宿泊施設の魅力向上や受入環境の整備を支援する。												
[事業内容] (1) 多様な宿泊施設整備支援事業 サイクリストに優しい宿、ペットと泊まれる宿、本県の観光資源を活用した伝統工芸ルーム、水族館ルーム等、来県の目的となるような魅力的な宿泊施設の整備にかかる経費を補助 (2) 地域再生の核となる民宿への改修支援事業 ①地域型経営 1 地域に10以上の民宿が集積する地域における地域経営を行うための民宿への改修、共通利用可能な浴場等の整備費を補助 ②旅の目的となる民宿型 専門家チームにより計画された民宿への改修費を補助												
[受益者] 福井県の観光関係事業者（宿泊業、飲食サービス業）						[想定される受益者数] 事業所数：4,657（R3経済センサス-活動調査）						
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 民宿リニューアル支援事業 (実績) 客室や浴室改修等、62件の民宿等のリニューアルを支援					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) －					
市町との連携状況	事業者に対し、宿泊施設改修にかかる費用を補助					他県の状況	－					

多様な宿泊施設整備支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	市町、民間事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	1/3、1/2					☐ 法定受託事務			☐ その他		3 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	340,000				340,000								
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移					150,000	390,000	340,000	6 年度は新幹線開業を契機に需要が高まっていたため					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					121,355	354,487							
決 算 額 の 推 移					115,791								
前年度までの 主な増減理由		・ R 6：旅の目的の債務負担行為 3 件分、新規開業枠の増設、一般枠の 6 月補正による増額 ・ R 7：旅の目的の採択件数について 3 件→2 件に減少											
[成果指標等の推移]													
区分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県内延べ宿泊者数（万人） ※宿泊旅行統計調査（観光庁） ※暦年	（目標） 実績	233	271	324	(510) 343		(510)	(510)	令和 6 年目標値 5 1 0 万人（ふくい観光ビジョン）			
活動指標	整備支援件数	（目標） 実績			32	(30) 34	(35)			一般枠、新規開業枠、旅の目的、全て交付申請時点ベース 令和 6 年実績は見込み			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
・活動指標の目標値を超えて整備を行い、稼働率は改修前後で1.2倍増加、売上も単価向上により1.2倍～1.7倍へ推移し、一定の効果が得られた。しかし、全国的な国内旅行者需要の減少から、観光ビジョンで設定の成果目標には届かなかったものの、宿泊者数増加に一定程度寄与したものとする。					・前年度執行率、市町活用希望を見込んだ補助金額の算定				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									■ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	市町、民間事業者				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	補助							■ 補助金		経過年数		
補助率	1/2ほか							□ その他		3 年		
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを上げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線県内開業効果最大化のため、宿泊機能強化が喫緊の課題であり、景観整備などによりスケールアップを図ることにより、稼ぐ観光地域づくりを促進する。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和5年県内観光客入込数 17,598千人 うち、日帰り客 14,966千人 宿泊客 2,632千人						
[事業目的] 北陸新幹線や中部縦貫自動車道全線開通による効果を最大化するため、伝統工芸や禅など、多くの人を惹きつける本物の価値をもつ観光素材を活かして観光地域を高付加価値化し、さらなるスケールアップを図ることにより、観光客の滞在時間の伸長、観光消費額の増加につなげ、より稼げる観光地づくりを進める。												
[事業内容] 補助要件 以下のすべてを満たすこととする。 ・本県の「本物」の価値を持つ観光素材を活かし、観光地の高付加価値化、観光消費額増加を図る取組みであること (観光素材例：温泉、伝統工芸、地質(恐竜)、禅、歴史、文化財 など) ・観光地域内のまち歩きを推進する取組みであること ・市町が地域DMO、観光協会、地域の民間事業者等と連携し整備事業計画を策定すること ・計画の下で、宿泊事業者を含む複数の事業者・団体が事業を進め、観光地域づくりを行うこと ・観光地域内の滞在時間伸長、観光消費額増加に資するソフト事業を展開すること 補助対象者 (計画策定)市町(市町間連携を含む) (ハード・ソフト)市町(市町間連携を含む) ※民間事業者への間接補助を含む 補助上限額 (計画策定)2,500千円/事業 (ハード)100,000千円/事業 (ソフト)15,000千円/事業 補助率 (計画策定)1/2以内 (ハード・ソフト)補助対象経費の1/3以内 (国庫活用の場合は、市町負担の経費の1/2以内)												
[受益者] 福井県の観光関係事業者(宿泊業、飲食サービス業)						[想定される受益者数] 事業所数：4,657(R3経済センサス-活動調査)						
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 周遊・滞在型観光推進事業 (実績) H28 計画策定 H29~R4 ハード、ソフト事業に対して支援					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -				
市町との連携状況	市町が地域の観光関係事業者と連携し整備計画を策定し、計画を基にしたハード整備・ソフト事業に県が補助金を充当していく形での連携を図っている(補助対象者は市町)					他県の状況		-				

新幹線時代の観光地域スケールアップ支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	市町、民間事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金		経過年数		
補助率	1/2ほか								☐ その他		3 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	101,356						101,356						
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移					10,381	102,881	101,356	市町の計画に準ずるもの					
2月現計予算額の推移					5,080	40,469							
決算額の推移					4,950								
前年度までの主な増減理由		R6：初年度に策定した整備計画を基に、次年度以降ハード整備・ソフト事業を実施するため増											
[成果指標等の推移]													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光客入込数（千人） （※暦年）	（目標）	(18,000)	(18,500)	(19,000)	(20,000)	(20,000)	(17,500)	(20,000)	R6年目標値 20,000千人（観光ビジョン R2～R6） R7年目標値 新観光ビジョンの目標値による R6年度実績は見込み値			
		実績	12,356	15,191	17,598	20,000		11,706					
活動指標	支援事業数	（目標）			(4)	(4)	—		(8)	目標値は、嶺北：5市町、嶺南3市町の計8市町 事業採択はR6年度で終了。R7以降は、事業内容が市町の施設整備等 への支援であるため、活動指標の設定なし			
		実績			3	4	—	7					
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価			
・審査会にて目標値である4市町を採択し、活動指標を達成。北陸新幹線開業効果も後押しとなり、成果指標である観光客入込数20,000千人を達成する見込み。					—					☐ 拡充	☒ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
										☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	1,328
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

民宿魅力再発見調査事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金				
補助率	－					□ その他			□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
【解決すべき問題・課題】 小規模宿泊施設（従業員数0～9人）である民宿の割合が全国4位であるにも関わらず、これらの民宿の稼働率が低いことから、令和6年4月現在において旅館の稼働率が全国最下位となっている（観光庁「宿泊旅行統計調査」（R6.4速報値））。						【問題・課題を表す客観的データ】 令和5年県内観光客入込数 17,598千人 うち、日帰り客 14,966千人 宿泊客 2,632千人							
【事業目的】 民宿の稼働率が低い要因を定量、定性的に調査・分析し、魅力を発見するとともに、民宿の稼働率向上のために必要なアプローチを検討する。													
【事業内容】 (1) 民宿を有する他県の観光客等を対象とした現地調査（1,200人程度） ・ 民宿を有するエリアにある福井の民宿に近い立地場所において、現地調査を実施（関西・中京・北陸（福井を含む）） 〈調査項目〉 ①属性（性別・年代・同行者等）、②現地の民宿を選んだ理由、③福井県の認知・来訪意向 など (2) 県内民宿へのヒアリング（10件程度） ・ 県内民宿に現状ヒアリングを実施 〈ヒアリング項目〉 ①想定外の回答や共感ポイント、②地元に不足しているもの、③改善点や有効な施策が考えられるか など (3) 戦略検討会議 ・ (1)および(2)で得られた結果をもとに、観光協会や民宿事業等と、民宿の稼働率向上のために必要なアプローチを検討													
【受益者】 福井県の観光関係事業者（宿泊業、飲食サービス業）						【想定される受益者数】 事業所数：4,657（R3経済センサス-活動調査）							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) －						
市町との連携状況	－				他県の状況		－						

民宿魅力再発見調査事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体		県			事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法		委託							□ 補助金					
補助率		－				□ 法定受託事務			□ その他					
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	3,092						3,092							
[予算額の推移等] (単位：千円)														
区分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移								3,092						
2月現計予算額の推移														
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由		－												
[成果指標等の推移]														
区分				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県内延べ宿泊者数（万人） ※宿泊旅行統計調査（観光 庁）		(目標) 実績	233	271	324	(510) 343		(510)	(510)	令和6年目標値 510万人（ふくい観光ビジョン）			
活動指標	民宿調査の回答者数		(目標) 実績					(1,200)			調査対象サンプルを一定程度揃えるため			
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点						事業評価				
－				－						□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										□ 継続	□ 休止	□ 完了		
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

六呂師高原活性化事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－					□ その他			□ その他					
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕							
[解決すべき問題・課題] 中部縦貫自動車道の開通に向けて、六呂師高原エリアのレベルアップを図りさらなる誘客促進を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 六呂師高原観光客入込数 102千人 令和5年 六呂師高原観光客入込数 98千人								
[事業目的] 六呂師高原の新たな誘客の柱の検討や六呂師高原内の各施設レベルアップ等を図り、中部縦貫自動車道の開通効果の最大化と地域の活性化を目指す。														
[事業内容] (1) 六呂師高原-恐竜博物館直行バスの実証運行 (2) デジタル恐竜化石発掘体験の実施														
[受益者] 福井県の観光関係事業者（宿泊業、飲食サービス業）						[想定される受益者数] 事業所数：4, 657（R3経済センサス-活動調査）								
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) －							
市町との連携状況	六呂師高原全体の活性化策について、開発事業者・大野市・地元関係者等と検討				他県の状況		－							

六呂師高原活性化事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託								□ 補助金		経過年数		
補助率	－								□ その他		6 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	8,040						8,040						
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移			18,139	20,821	75,279	241,801	8,040	R7夏に六呂師高原キャンプ場がOPEN予定であるため、ソフト事業を実施 (R6年度はハード事業(キャンプ場整備、既存建物解体)があったため減)					
2月現計予算額の推移			18,139	43,981	474,753	166,222							
決算額の推移			18,139	42,065									
前年度までの 主な増減理由		R3：六呂師高原活性化構想を策定 R4：開発箇所の民有地の購入等 R5：六呂師高原スキー体験施設の解体工事、六呂師高原開発事業者への支援等 R6：妻平ヒュッテやハイランドホテルの解体工事等											
[成果指標等の推移]													
区分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	六呂師高原観光客入込数 (千人) (※暦年)		(目標) 実績	108	102	98	100		(280)	R8目標値 280千人(六呂師高原活性化構想) R6年度実績は見込み値			
活動指標			(目標) 実績							主たる事業内容が活性化に資する民間事業者への支援であるため、活動指標の設定なし			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
六呂師高原活性化事業の途中段階であり、六呂師高原観光客入込数の大きな増加には繋がっていない。					令和7年夏に民間事業者によるキャンプ場オープンに合わせ、県においても、六呂師高原-恐竜博物館直行バスの実証運行やデジタル恐竜化石発掘体験を実施することにより、六呂師高原観光客入込数の増加に寄与する。				□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	233,761	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

サービス品質向上事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを広げる(創造力)] 政策 [10 新幹線開業効果を最大化]				関連する県の計画等		[FIRST291～北陸新幹線開業プラン～]					
[解決すべき問題・課題] 新幹線開業後は、県内観光事業者のサービス品質向上させてことにより、観光客の満足度向上、滞在時間の伸長・観光消費額の増加・リピーターの確保に繋げることが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年 福井県観光客入込数 1, 519万人 観光消費額 1, 058億円						
[事業目的] 全国レベルのサービス品質を確保し、旅行者の満足度向上を図るため、観光事業者向けのセミナーを開催するとともに、おもてなしに関する動画を広く発信することで、県全体のサービス品質向上を図る。												
[事業内容] (1) サービス品質向上セミナーの開催 観光事業者やタクシー会社、個人事業主向けに、おもてなし意識・マネジメントスキル向上のためのセミナーを開催し、会社全体のサービス品質向上につなげる。 (2) お客様満足度に関する調査＆フォローアップセミナーの開催 セミナー受講事業者を中心とするお客様満足度調査を実施した後、調査結果に基づき事業者が自社の問題点を把握し、今後の改善につなげられるようフィードバックセミナーを開催し、観光サービス向上活用のための支援を行う。												
[受益者] 県内の観光事業者(飲食・宿泊・交通)						[想定される受益者数] 事業所数：5,490 (R3経済センサス-活動調査)						
前事業の有無・実績	□ 無 ・ サービス品質向上事業 ■ 有 事業名 ・ おもてなしセミナー事業 (実績) サービス品質向上事業・・・セミナー開催2回(同時ライブ配信) フォローアップセミナー・・・セミナー開催2回(同時ライブ配信) お客様満足度調査・・・観光事業者50回、タクシー事業者50回 R5新規動画掲載・・・5本 おもてなしセミナー・・・セミナー開催1回(同時ライブ配信)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -				
市町との連携状況	-					他県の状況		-				

サービス品質向上事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営								□ 補助金		経過年数		
補助率	-								□ その他		6 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額							0						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			6, 914	5, 114	5, 071	2, 121		事業終了					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			5, 658	5, 114	5, 071	2, 121							
決 算 額 の 推 移			2, 310	5, 107	5, 030								
前年度までの 主な増減理由		R 6 は、おもてなし規格認証取得支援の終了による減											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	認証取得数(R2～R4)	(目標)	(60)	(90)		(60.0)		(90)	(60.0)	・ (R2～R4、中間目標) 紅認証取得件数 (件) ・ (R5～R6、最終目標) 福井県観光連盟アンケート調査による来訪者満足度 (%)			
	来訪者満足度 (R5～)	実績	67	44	52.2	88.5		111	88.5				
活動指標	動画掲載本数(R2～R5)	(目標)	(15)	(5)	(5)	(4)		(5)	(4)	・ (R2～R4、中間目標) おもてなしオンラインセミナー動画作成本数 ・ (R6、最終目標) サービス品質向上セミナー開催数 観光事業者向け 2 回、タクシー事業者向け 2 回			
	セミナー開催数 (R6～)	実績	19	5	5	4		10	4				
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
経営者向けに社員教育に使えるような内容でセミナーを開催し、接客に関する厳しい口コミが減少、成果指標である来訪者満足度を達成。					事業見直し年度に伴い、事業終了福井県観光連盟のアンケートにおいても、サービス品質を評価するコメントは増加しており、今後は各市町や各団体に自主開催でサービス品質を維持していくように進めていく。				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	2, 121	
									□ 整理統合	■ 廃止	□ その他		

観光ガイドコンテンツレベルアップ事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	H28 年度 経過年数 10 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	補助											
補助率	定額											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを上げる(創造力)] 政策 [10 新幹線開業効果を最大化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～]					
[解決すべき問題・課題] 民間調査によれば、県内への旅行者の内、再訪意欲ありと答えた観光客の数値は全国下位である。リピーターの確保には「広域的な観光案内」および「地元民と接する機会」が重要な要素の1つであることから、県内における観光ガイド人材のレベル向上が急務である。						[問題・課題を表す客観的データ] じゃらん宿泊旅行調査結果 宿泊旅行先としての福井県のパワー評価 ・今後の来訪意欲 43位						
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業を経てより多くの観光客が福井県を訪れることが見込まれる。そこで、ガイド人材の接遇・マナー向上、およびガイドツアープログラムの造成を行うことで、観光客の満足度向上・滞在時間の伸長・リピーターの増加を図る。												
[事業内容] (1) 「観光ガイド養成コース」の開講 観光客のニーズに合わせた広域的な観光案内ができる観光ガイドを育成すべく、ウィズ/アフターコロナのガイディングのあるべき姿や基本的なガイディング技術などについて、実践的な演習を通じて学べる講座を実施する。 (2) 「ガイドツアー造成コース」の開講 観光事業者を対象に、商品ターゲットの考え方や、ガイドにおけるストーリー設定の方法、ツアー商品販売の方法、ツアーオペレーションのノウハウなどについて、セミナーやワークショップを行う。また、実際に講師や他参加者の前でガイドツアーの実践を行い、フィードバックを受けることで相互にプログラムを磨き上げていく。												
[受益者] 県内観光客						[想定される受益者数] 1,519万人 (R4観光客入込数)						
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 福井県認定観光ガイド養成講座 (実績) ・ガイドディングツアー造成事業 福井県認定観光ガイド養成講座：R4認定者数 35名				関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担) —					
市町との連携状況	—				他県の状況		富山県 とやま観光未来創造塾					

観光ガイドコンテンツレベルアップ事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	(公社) 福井県観光連盟				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	H28 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	定額					☐ 法定受託事務			☐ その他		10 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額							0						
[予算額の推移等]													(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			2, 045	6, 164	7, 307	6, 275		事業終了					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			2, 045	6, 164	7, 307	6, 275							
決 算 額 の 推 移			1, 722	5, 743	7, 307								
前年度までの主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	観光客入込数(千人) (※暦年)	(目標) 実績	12, 356	15, 191	17, 598	(20, 000) 20, 000			(20, 000) 20, 000	令和元年目標値 13, 000千人(観光新戦略H26～R1) 令和6年目標値 20, 000千人(観光ビジョンR2～R6) ※令和6年度実績は見込み値			
活動指標	ガイド認定数	(目標) 実績	(30) 19	(30) 35	(30) 25	(30) 24			(240) 269	観光おもてなし認定事業 (H28～H31) の認定数をベースに算出			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価				
【事業による要因】 ・認定ガイド養成講座の申込者46名のうち、日程調整や体調不良等により、受講できなかった者を除き、27名が認定試験を受験。そのうち、3名は合格点に満たず不合格となった。 【外的要因】 ・北陸DCの開催期間と重なったことにより、観光事業者や交通事業者の日程調整が難しくなった。					事業見直しに伴い、事業終了。 今後は、DMOなどの観光事業者と連携し、より旅行者の需要に合った売れる旅行商品の造成と付加価値の高いガイドインング技術を持った観光ガイドの育成を支援していく。				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	6, 275	
									☐ 整理統合	■ 廃止	☐ その他		

レンタカー等観光二次交通整備事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	県内の民間事業者				事 務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	□ 実行予算 ■ 補 助 金 □ そ の 他	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	補助											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力）〕 政策〔 10 新幹線開業効果を最大化〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線開業に伴い、レンタカー、カーシェアの台数不足が予想される						[問題・課題を表す客観的データ] 北陸新幹線乗客数 開業前比295% ※出典：運輸総合研究所資料 （開業前H26.3～H27.3）直江津～糸魚川間8,300人／日 （開業後H27.3.14～H28.3.13）上越妙高～糸魚川間25,300人／日						
[事業目的] 北陸新幹線開業に伴い台数不足が予想されるレンタカー、カーシェアについて、保管場所確保のための駐車料金支援を行い、県内を訪れた方がレンタカー、カーシェアで移動できるよう整備を行う。												
[事業内容] ○レンタカー、カーシェア保管費用支援 レンタカーやカーシェア事業者がレンタカー、カーシェア用自動車の台数を増やす目的で駐車場を契約している場合、費用を一部補助する。（月極駐車料金の3分の1、上限5,000円） ※レンタカー113台、カーシェア57台の計170台支援する レンタカーとカーシェアの割合は、東京都在住者への旅行手段ネットアンケートの結果（レンタカー：カーシェア＝2：1）を参考に算出												
[受益者] 県内観光客						[想定される受益者数] 1,519万人（R4観光客入込数）						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) —					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) —					
市町との連携状況	—					他県の状況	—					

レンタカー等観光二次交通整備事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代		
事業主体	県内の民間事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助								■ 補助金		経過年数		
補助率	1/3					☐ 法定受託事務			☐ その他		3 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額							0						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移						26,777	11,220		事業者において駐車場を十分確保できている現状に鑑みて事業廃止				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						26,777	11,220						
決 算 額 の 推 移						19,079							
前年度までの 主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	観光客入込数(千人) (※暦年)	(目標) 実績				(20,000) 20,000			(20,000)	6年目標値 20,000千人(観光ビジョンR2～R6) 6年実績値 見込み値とする			
活動指標	レンタカー、タクシー 増車数 (台)	(目標) 実績				(170) 109			(170)	6年度実績値 見込み値とする			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価			
県内で100台分以上増車され、懸念されていた北陸新幹線開業後のレンタカー不足に対して一定の効果があつた。 一方で170台が不足すると試算していたが、既存駐車場の空きスペースでの保管場所確保や県内外の支店での車両のやりくりにより、目標値よりも下回つた。						本事業の効果もあり、県内のレンタカーの需要に対し各社の増車対応により必要とされる台数を満たすことができたことと判断し、令和6年度をもって本事業を廃止する。				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
										☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	11,220
										☐ 整理統合	■ 廃止	☐ その他	

東南アジア市場新規開拓事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [3 楽しみを上げる(創造力)] 政策 [10 新幹線開業効果を最大化]				関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 東南アジアにおける旅先としての福井県認知度向上						[問題・課題を表す客観的データ] 令和元年 福井県 外国人延べ宿泊者数 97,730人 うち東南アジア 7,920人 (全体の8.1%)						
[事業目的] 将来の訪日ポテンシャルが高く、食文化や宗教上の受入環境整備の障壁が少ない東南アジア市場を多数の自治体が参入する前に新規開拓し、将来の渡航者数を獲得する。												
[事業内容] ベトナム (BtoB中心) 現地旅行社に対する認知度向上のため、展示会では知名度の高いJNT0ブースに出展 タイ (BtoC&B) 旅行博で情報を収集する層が多いため、JNT0主催の訪日旅行特化フェア(FIT)に出展 旅行商品造成を促すため、旅行会社を招聘												
[受益者] 観光事業者(宿泊業、飲食、サービス業)						[想定される受益者数] 4,774事業所(R3年経済センサス)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・ 役割分担	□ 無 ■ 有 事業名 小松空港国際定期路線推進事業 (役割分担) タイ現地旅行社の招聘を石川県と共同で実施し、小松空港へタイからのチャーター便および定期便の誘致を目指す。					
市町との連携状況	-					他県の状況	-					

東南アジア市場新規開拓事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度	
事業実施方法	直営					■ 法定受託事務							
補助率	-												
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額						0							
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移				0	4, 360	7, 050	5, 450		事業終了				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移				0	4, 360	7, 050	5, 450						
決 算 額 の 推 移				0	4, 352	6, 301							
前年度までの 主な増減理由		令和 5 年度タイ追加 令和 6 年度フィリピンの削除、タイ旅行会社招へいが石川県連携から単独事業となった。											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績	9, 370	12, 560	64, 900	(400, 000) 89, 040			(400, 000)	令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン）			
活動指標	旅行会社招聘数	（目標） 実績		(1) 1	(3) 3	(2) 5				東南アジアの旅行会社やメディア、インフルエンサーの招聘件数			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点					事業評価			
ベトナム市場：ベトナム旅行博出展(R6. 9)、旅行会社訪問営業4社、 旅行会社招聘1件(R6. 12) タイ市場：タイ旅行博(R7. 1)、旅行会社訪問営業5社、 旅行会社招聘1件(R7. 3予定) インフルエンサー招聘2件(R6. 12、R7. 1) シンガポール市場：シンガポール旅行博出展(R6. 8)、旅行会社訪問営業5社 活動指標について目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】 ・旅行商品造成には時間がかかるため、旅行会社による年度内の商品造成にはつながらなかった。					インバウンド事業全体を見直し、他事業と統合し、引き続き 東南アジアからの誘客を行う。					□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	5, 450
										□ 整理統合	■ 廃止	□ その他	

ZENをメインテーマとした誘客事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	-								□ その他					
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 政策〔 10 新幹線開業効果を最大化				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン							
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]								
欧米に対する福井県の認知度向上。 訪日外国人向けの着地型商品が少ない。						令和元年 福井県 外国人延べ宿泊者数 97,730人 令和4年 福井県 外国人延べ宿泊者数 12,560人								
[事業目的]														
本県が世界に誇るコンテンツであるZENをテーマとした旅行商品の磨き上げや現地REPを通じたプロモーションにより、インバウンドの本格獲得に繋げる。														
[事業内容]														
①販路開拓 ・北米レップの設置 現地旅行事業者、メディアへのセールス活動、および情報提供業務などの対応														
②プロモーション ・仏のZENセンター等を活用した現地PRイベント、セールスコールを実施 ・プロモーション動画をオンライン広告として配信														
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4, 7 7 4 事業所（R3年経済センサス）								
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況	-				他県の状況		-							

ZENをメインテーマとした誘客事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R4 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	委託								□ 補助金		経過年数		
補助率	-								□ その他		4 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額							0						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移					16,400	16,400	15,000		事業終了、一部事業（米レップのみ）は他事業に統合（海外旅行会社との取引拡大推進事業）				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					16,400	16,400	15,000						
決 算 額 の 推 移					16,390	16,330							
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分				3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績		9,370	12,560	64,900	(400,000) 89,040			(400,000)	令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン） 6年度実績は見込み値		
活動指標	現地旅行会社との商談会参加社数	（目標） 実績			(10) 24	(10) 10	(10) 24				前年度を踏まえた活動指標		
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価							実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価			
活動指標について目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、インバウンドから本県への認知度が不足したため、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】 ・本県の認知度向上の取組が他の観光地を上回って露出するのに不十分							-			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	15,000
										□ 整理統合	■ 廃止	□ その他	

インバウンド広報キャンペーン事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県	事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度			
事業実施方法	委託											
補助率	-											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [3 楽しみを上げる(創造力)] 政策 [10 新幹線開業効果を最大化]	関連する県の計画等		[ふくい観光ビジョン]								
[解決すべき問題・課題] 友好都市協定を結んでいる都市との交友を活かして、観光誘客につなげていない。 福井県の認知度が低い。						[問題・課題を表す客観的データ] 友好都市 浙江省の人口…6,577万人 訪日客の割合(2019年)：個別手配(FIT) 76.6%、パッケージ団体旅行23.4%						
[事業目的] 中国からの団体旅行客が解禁され、友好都市協定を結んでいる浙江省や海外から外国人観光客に本県の魅力を発信し、旅程決定前に福井県を宿泊地として設定してもらえるように、福井県宿泊者へのプレゼントキャンペーンを実施する。												
[事業内容] 【浙江省】 OTAサイトに掲載している県内の宿泊業者から参加者を募集し、HPにOTAサイトリンクとともに一覧を掲載。 県が浙江省でPRを行い、プレゼント引換券を掲載する。一覧掲載宿泊施設で引換券と交換でプレゼント。 (1) キャンペーン掲載料 (2) プレゼント費用 先着順1, 000人を対象 【インターネット広告】 上記浙江省と同じスキーム (1) 広告費用 (2) プレゼント費用 先着順4, 000人を対象 【SNS投稿キャンペーン】 観光地等においてその観光地と分かる写真の投稿をSNS上に本人が行ったとき、観光地窓口でノベルティと交換するキャンペーンを実施 (1) 広報費用は上記【インターネット広告】と同時に行う (2) ノベルティ費用												
[受益者] 県内宿泊施設、県内観光地						[想定される受益者数] 4, 774事業所(R3年経済センサス)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -				
市町との連携状況	-					他県の状況		-				

インバウンド広報キャンペーン事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課	課長名	野村 佳代	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託			□ 補助金				経過年数				
補助率	-			□ その他				2 年				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額					0							
[予算額の推移等]												(単位：千円)
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移						37,962		事業終了				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						37,962						
決 算 額 の 推 移												
前年度までの 主な増減理由		-										
[成果指標等の推移]												
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	キャンペーン期間中の宿泊数（宿泊）	(目標) 実績				(4,000) 3,000				台湾、香港、中国、アメリカから各1,000名宿泊を目指す		
活動指標	キャンペーン開催	(目標) 実績				(1) 1				広報キャンペーンの実施		
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和 7 年度の変更点			事業評価			
活動指標について目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】 広告費に予算をかけたが、キャンペーンの認知度がまだまだ足りていなかった 【外的要因】 多くの宿泊施設にご協力いただいたが、忙しくてプレゼントを渡しそびれているケースも見られた						-			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									□ 継続	□ 休止	■ 完了	37,962
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

J R西日本と連携したインバウンド誘客促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代		
事業主体	県、インバウンド推進協議会等				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営、負担金					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								■ その他					
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる（創造力） 政策〔 10 新幹線開業効果を最大化				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン							
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]								
北陸新幹線開業を控えJR西日本との連携や、多数の訪日外国人が利用する東海道 新幹線の運行主体であるJR東海などのJR各社との連携強化						令和元年 福井県 外国人延べ宿泊者数 97,730人 令和4年 福井県 外国人延べ宿泊者数 12,560人								
[事業目的]														
高い送客能力を持つJR西日本と連携し、訪日需要の早期回復が見込まれるアジア圏からの誘客を図る。														
[事業内容] ○福井県インバウンド推進協議会[※事務局JR西日本福井支店]と連携し、アジア圏を中心としたプロモーションを実施														
[受益者] 観光事業者（宿泊業、飲食、サービス業）						[想定される受益者数] 4, 7 7 4 事業所（R3年経済センサス）								
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) －				関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) －							
市町との連携状況	－				他県の状況		－							

J R西日本と連携したインバウンド誘客促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	交流文化部	課名	観光誘客課		課長名	野村 佳代
事業主体	県、インバウンド推進協議会等				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営、負担金							□ 補助金		経過年数		
補助率	－							■ その他		6 年		
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額						0						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	令和 7 年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移			6, 100	6, 100	4, 600	3, 600		事業終了				
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			6, 100	6, 100	4, 600	3, 600						
決 算 額 の 推 移			4, 598	5, 845	4, 178							
前年度までの 主な増減理由		－										
[成果指標等の推移]												
区 分			3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊者数（人） （※暦年）	（目標） 実績	9, 370	12, 560	64, 900	(400, 000) 89, 040			(400, 000)	令和 6 年 4 0 万人（ふくい観光ビジョン）		
活動指標	JRとの連携実績	（目標） 実績	(3) 3	(1) 1	(1) 2	(1) 1				JR西との連携事業での契約本数		
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和 7 年度の変更点				事業評価			
JRパスや楽しい福井パスを利用した福井県への観光情報を掲載したデジタルパンフレットを作成し、海外の旅行博覧会や旅行会社への訪問営業で使用。デジタルブックについて、JR西日本グループである日本旅行のインバウンド向けHPやSNSで投稿。海外の旅行会社約1300社にメールマガジンを配信。 活動指標について目標を達成し、外国人宿泊者数の増加には寄与したが、インバウンドから本県への認知度が不足したため、成果指標達成できなかった。 【事業による要因】 ・本県の認知度向上の取組が他の観光地を上回って露出するのに不十分					福井県インバウンド推進協議会の期間満了により終了。令和6年9月、新たに福井県とJR西日本で訪日旅行者誘客等に関する連携協定を締結したため、インバウンド事業全体を見直し、他事業と統合。				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	3, 600
									■ 整理統合	□ 廃止	□ その他	